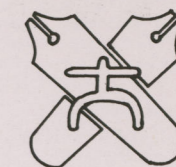


慶應義塾大学工学部

# 管理工学科

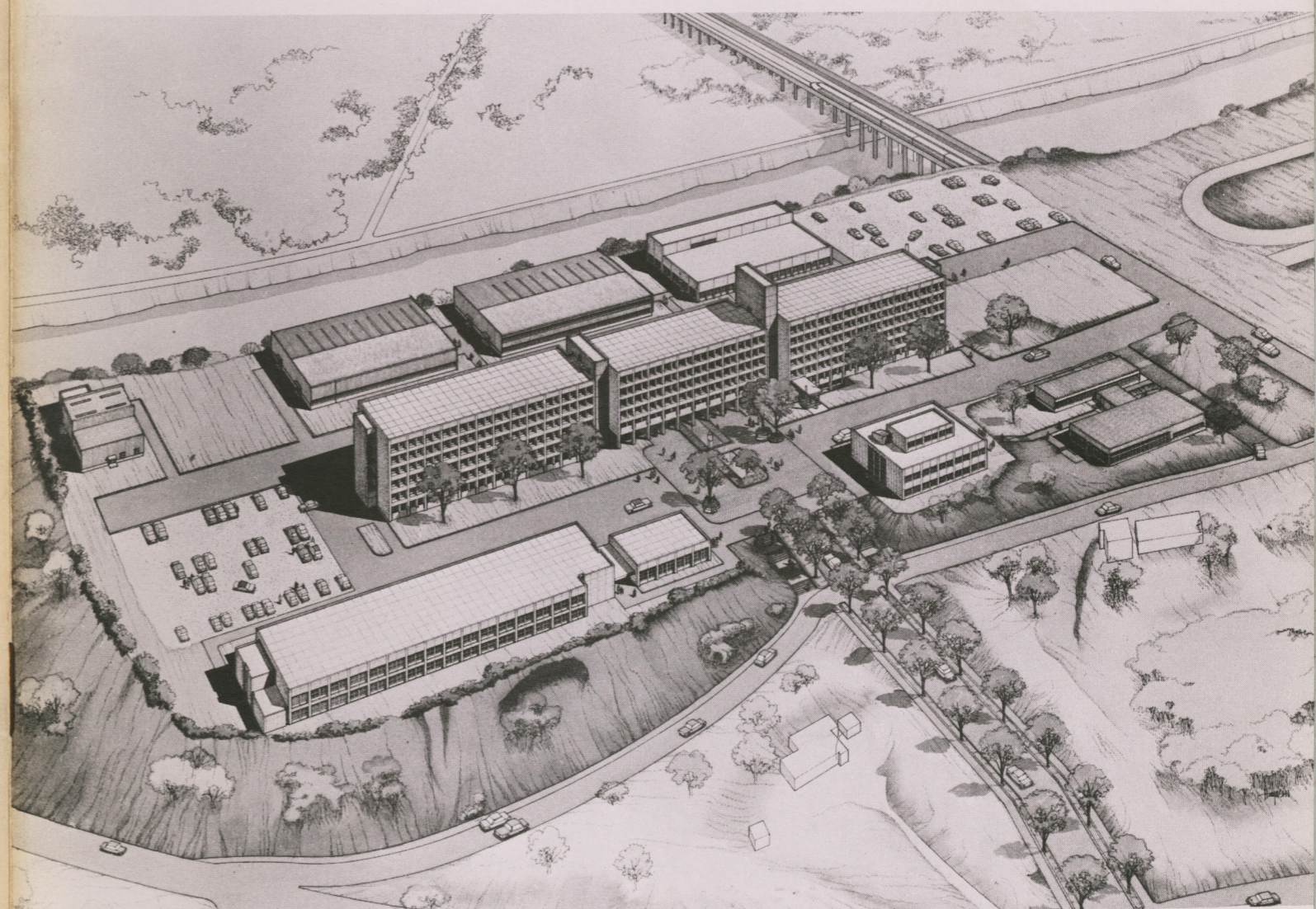
BULLETIN



昭和48年4月1日

Department of Administrative Engineering,

Faculty of Engineering, Keio University, Tokyo



(〒223) 横浜市港北区日吉町832 慶應義塾大学工学部管理工学科教室 TEL (045)63-1141 (代表)

夜間専用63-1159 (管理工学科直通)

## ■ 設立趣旨

従来多くの大学の工学部の教育は、機械、電気、応用化学……等の固有技術の領域に分れて、それぞれ特殊化された専門技術者を育ててきた。しかるに、第二次大戦後における産業経営の急速な近代化に伴って、従来とは異なるタイプの技術者が強く要求されてきた。慶応義塾大学工学部は、昭和14年創立以来発展を続け、昭和32年にはオートメーション時代の要求に応じて計測工学科を新設したのであるが、総合的な視野にたつてシステムの分析・設計・管理を行なう能力を身につけた管理技術者を養成するためには、さらに新しい学科が必要であることが痛感された。こうして昭和34年4月に管理工学科が設立されたのである。(なお、当学科の設立に当り、北海道炭礦汽船株式会社社長・萩原吉太郎氏より敷地の寄贈を受けた。)

ここで生み出される技術者は、産業界の各種の現場で働きつつ、しかも広いシステムな見通しをもたねばならない。ここに従来の商経学部でも工学部でもみだされなかった新しい学科の役割りがあるといえる。教育のスタッフも、工、理、経、商、医、文の各分野の出身者が集って、協力して共通の広場を作り上げる努力を重ねている。

設立に当って、「工学でもない、経営学でもない」といった中途半端な存在になってしまわないように、充分の配慮が払われた。すなわち基礎的な工学および数学の学力の充実を土台にした管理技術者の養成を目ざし、学科目は系統的な展望のもとに配列されている。広範囲な分野の中で特に重点的な目標とされているのは次ページに示すような方向である。

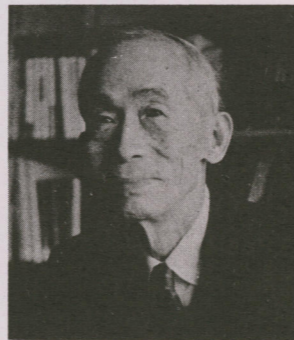
## ■ 管理工学教育の意欲

産業立国という日本の宿願の達成に、科学技術の振興がどんなに重要であるか、それには理工系大学の強化がどんなに大切なことであるかということ、国民全体がともに考え、その対策を今日ほど真剣に講じようとしていることは、おそらく過去にはなかったであろう。われわれの学科は我が国ではじめての管理工学科として昭和34年4月に生れたばかりであるから、まだ日は浅い。この新しい管理工学を創造するには、やはり新しい意気と意欲とが必要で、教育の方法にも新しい工夫をもって、良い技術者、良い研究者の卵を育て挙げようと、充実した日々を忙しく建設に努力している。

教室のいだいている夢がいずれは実現され、日本の産業立国に大きな力となる新しい若いエネルギーがわき出す源泉となるであろう。教職員の熱からも学生の輝く瞳からも、その息吹きを感じ取っている。

昭和34年4月(設立当時のパンフレットより)

初代主任 山内二郎



## ■ 管理工学の対象分野

### [I E ・ システム工学]

伝統的なインダストリアル・エンジニアリング(IE)の手法の研究や教育に加えて、定量的な分析およびシステムという観点からのモダンな手法の開発や教育に重点をおいている。そのひとつの特色は、システム人間工学の充実にある。これは人間および人間-機械系といったものをシステムとしてとらえ、工学的なアプローチを試みるものである。また、企業システムに限らず、社会・行政など人間集団の活動すべてをシステムとしてとらえて解析・設計するという行き方や、経済性に関する工学的アプローチなども他にみられない特色である。

### [O R ・ 応用統計]

管理工学の研究は、多様な現象を一つのシステムとしてとらえ、その構造を分析し、合成の方法を検討することを主要なねらいの1つとしているが、OR(オペレーションズ・リサーチ)では、それらのシステムの数学的なモデルのプロトタイプ——線型、非線型計画法、動的計画法、ゲームの理論、待ち行列の理論等——をあたえ、これにもとづいて研究と教育をすすめている。

また、管理技術の有力な武器になる確率論や統計学について、理論的ならびに応用上の基礎知識をあたえる。たとえば、統計的品質管理、実験計画法、標本調査法、信頼性理論、因子分析、主成分分析、ならびにサイバネティックスの数学的基礎としての情報理論、時系列解析(確率過程論を含む)などがこの分野の研究対象として取り上げられている。

### [経営管理・経営計算]

1. 管理工学の研究対象である組織体の活動に対する基礎的理解を与え、組織体の管理責任者として行動する場合に必要な基礎知識を与える。
2. 組織体特に企業における活動の計画および管理を経済的および人間的側面から考察し、経営活動の諸問題を分析・決定する場合の諸理論、および経営活動の経過ならびに結果を認識・測定・記録・報告するに必要な情報システムの基礎知識を与える。
3. 具体的には、経営計画および管理、会計学、企業経済学、経済性工学、計量経済学、マーケティング、組織・人事管理、行動科学、財務管理、管理情報システム等のテーマをこの分野で取扱う。

### [電子計算機・情報科学]

電子計算機に関する教育の重要性は最近になって広く認識されるようになってきたが、当学科では、電子計算機のもたらすであろう大きな影響を予測し、設立当初から計算機の活用という面にも教育・研究の重点をおいてきた。管理工学はシステムを対象にし、管理技術およびその基礎数理を扱うが、その際、システムの1つの構成要素であり、その管理において不可欠な役割をはたす情報そのものについての考慮を忘れてはならない。このため、当学科では、電子計算機のプログラミングの学習あるいは、プログラミング言語およびソフトウェア一般の研究を行ない、その面から情報処理システムの設計・解析をとらえたり、またその基礎となる数学論理を学んだり、電子計算機の新らしい応用の開発を研究したりする。

■ 管理工学科の専門科目

科目名	内 容
システムズ・エンジニアリング第1	システムの概念・記述法・設計法, オートマトン, フローグラフ
同 第2	確率的システム, システムと多変数情報, 線形システムと確率過程, 階層の構造
人間工学 第1	人間工学の歴史, 人間機械システム, 視覚・聴覚の情報伝達, 運動能力と手動制御, 人間工学的設計
同 第2	サイバネティックスと生体モデル, 手動制御の数理モデルと人間特性, パターン認識, 感覚フィルター, 筋と運動システム, 生体モデルの歴史
インダストリアル・エンジニアリング第1	IEの定義・目的・歴史・範囲, 適用実態, 工程分析, 動作分析, 時間分析, プラント・レイアウト, 改善と人間要因
同 第2	組織体のシステム・マネジメントに必要な知識, システムの分析・設計に適用される考え方と手法
同 第3	IE活動のケース・スタディー, 問題解決のケース・スタディー, 最新論文の講読
生産計画管理論	生産管理の基本, 生産システムの分析, 生産システムの設計
数理統計学 第1	母集団と標本, 標本分布論, 推定論, 検定論
同 第2	適合度検定, 順序統計量, 回帰分析, 分散分析
応用統計学 第1	線形モデルにおける推定, 2次形式の分布, 線形モデルにおける検定論・区間推定論, 回帰分析
同 第2	統計的品質管理, 管理図法, 抜取検査法, 信頼性工学入門
実験計画法 第1	実験計画法とは, 1因子, 2因子, 3因子実験分割法, 実験計画の立て方
同 第2	交絡法, 一部実施法, 直交表による実験, 不完備ブロック計画, 模型について, 山登り法
統計調査論	基礎概念, 統計組織, 調査方法, 人口統計, 労働統計, 生産統計, 消費・物価統計, 財政・金融統計
標本調査論	標本設計の基本概念, 各種抽出法, 複合標本方式
オペレーションズ・リサーチ第1	表現論(グラフ理論, 組合せ数学初歩, シミュレーション, 待ち行列)
同 第2	最適化の諸理論(目的関数と制約条件, 一変数関数の最適化, 2次計画法, LP, DP, 変分法)
同 第3	OR第1, 第2で述べた各手法の具体的な適用, より高度の手法
同 第4	個々の具体的な方法への応用法研究
経済性工学	比較の原則, 有利さを判定するものさし, 条件に合った選択指標, 資金の時間的価値, 投資案の選択, 設備の取替えと経済寿命
経営計算論 第1	企業の活動と会計情報, 複式簿記のメカニズム, 財務会計, 財務諸表分析, コストの計算, 経営計画と会計
同 第2	経営管理と会計情報, 実績の計算とコントロール, 計画の作成と参加, 意思決定過程と情報システム
経営管理論 第1	企業とその環境, 経営活動の分析, 経営組織と意思決定, 計画・管理のシステムと手法

同 第2	意思決定の諸基準と評価尺度, 生産・販売計画, 設備投資計画, 在庫計画, 価格決定, 人員計画, 総合計画の考え方
同 第3	経営管理プロセスのモデル化, 企業活動と会計・財務情報, 目標計画法, 企業行動のシミュレーション・モデル
経済原論 第1	消費者行動論, 企業行動論, 市場の理論
計量経済学 第1	モデルの構造, モデル作成における諸手法, 可観測性の問題, モデルの妥当性の問題
同 第2	マクロ・モデルの推定, 無限型・有限型ラグ構造の推定, 非線形モデルシミュレーション実験
数理経済学 市場開発調査論 第1	投入産出分析, 一般均衡論 市場情報の収集と分析, 製品開発, 広告管理, 販売ストラテジー 計算機と機械語, アセンブリ言語, 四則演算, 入出力, 飛越し, サブルーチン, プログラミングテクニック
同 第2	リスト, スタック, 木構造, 分類, 記号処理
同 第3	EDPSの基本処理とファイル, バッチ処理とオンライン処理, マルティプログラミング, TSS, MISとデータベース
同 第4	コーディング, プログラミング手法, 各種計算機概論, オペレーティング・システム, 各種言語, 特殊話題
計算機工学 データ処理	基礎, 計算機の回路, 計算機の装置 事務計算と科学計算, 事務の流れ, 記憶媒体, 入出力装置, プロセスチャート, 符号化, 事務計算におけるプログラミング技法
データ伝送	データ通信とは何か, データ通信の応用, 伝送の諸方式, 空間分割・時分割・周波数分割, 総合通信網と将来のデータ通信応用
確率過程論 第1	確率過程における解析, 基本的な確率過程
同 第2	定常過程, 加法過程, マルコフ過程
線形数学 第1	ベクトル空間, 連立一次方程式, ユークリッド空間, 線形の幾何
同 第2	固有値問題, 行列の標準形, 行列の解析的扱い
数値解析	線形計算, 数値微分と数値積分, 微分方程式, 関数近似
産業心理学	作業能力, 人間の情意, 疲労, 産業災害, 技能習熟, 人間尊重と労働満足, 精神衛生
計量心理学	実験心理学における数量的処理, テストの数理, 因子分析法, 社会調査における数学的手法
計算機演習 統計OR演習 SE人間工学実験 IE実験	
経営管理演習 卒業研究 管理工学特別講義 学外実習	

## ■ 管理工学専攻大学院のカリキュラム

### 修士課程

システムズエンジニアリング特論	システム理論の研究
OR 特論 第1	ORの理論と実際に関する専門的研究
同 第2	同上
応用統計学特論	管理工学の各分野における統計学応用の新しい問題
数理統計学特論 第1	線形モデルにおける推測問題の一般理論
経営意思決定特論	主として不確実な見通しのもとでの意思決定を扱う
経済性工学特論 第1	複雑かつ現実的採算比較の諸問題
利益管理特論	組織体の活動の計画、指揮、統制、評価に用いられる経済データの分析・解釈
経営管理特論 第1	組織体運営の戦略、組織、統制の局面における基本問題、講義とケース・スタディー
計算機応用特論	計算機用言語の基礎理論と最近の発展、最近のシステム・プログラムの発展
数値解析特論 第1	計算機を意識した数値解析の基礎理論
同 第2	線形方程式の諸解法の理論と実際
データ・プロセッシング特論第1	言語理論とオートマトン
線形代数特論	線形代数についての輪講
計量経済学特論 第1	計量経済学の専門文献の輪講と講義
最適化理論	非線形計画の基礎理論
確率特論	確率論における加法過程論
統計学特論	統計的方法を管理工学の立場から体系的に整理する
計量心理学特論	因子分析に関する上級コース
人間工学特論 第1	人間の知覚、行動について、生理学的側面からの理論構造と、工学的に実現させるための理論
経営工学特論	企業の経営管理システムに関する工学的アプローチ
マネジリアル・エコノミクス	経営意思決定のための経済分析、およびそれと密接な関係にある財務情報システムについての専門的トピックス
管理工学特別演習 第1	
管理工学特別輪講 第1	
管理工学特別実験 第1	

### 博士課程

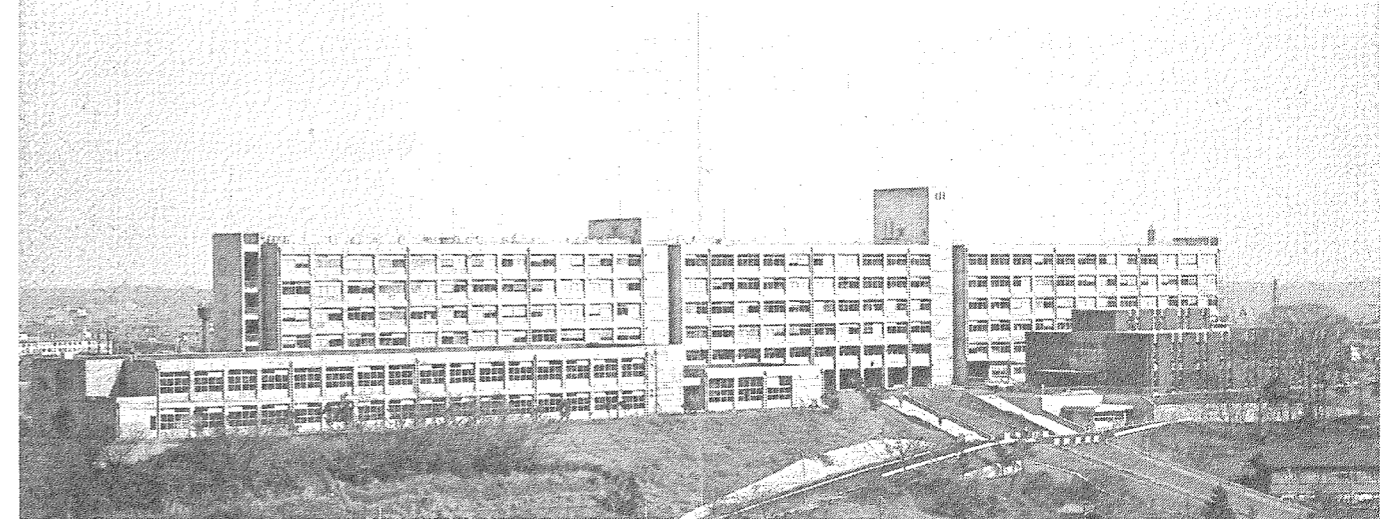
システムズエンジニアリング特殊研究	システム理論を主体として、システムのノイズがシステムの挙動にどう影響するかを研究する
応用統計学特殊研究	管理工学の分野における統計学応用の理論的水準を高めるための専門的研究
生産管理特殊研究	生産の計画ならびに統制に関する科学的方法について討議研究する
利益管理特殊研究	経営活動の計画、組織、統制における価値的手法を追求、未開拓の分野における計数的管理の現実的処理方法を確立する

計算機応用特殊研究	
数理工学特殊研究	
経済性工学特論 第2	
OR 特論 第3	
数理統計学特論 第2	
確率過程論	
人間工学特論 第2	
計量経済学特論 第2	
管理工学特別演習 第2	
管理工学特別輪講 第2	
管理工学特別実験 第2	

計算機の応用に関する理論と実際
ランダムな要素を含む種々の方程式
複雑な採算比較の問題
ORの専門文献の輪講
統計的決定関数論
確率過程の上級コース
人間が機械を制御するときの人間の挙動を自動制御理論を用いて考察
計量経済学に関するテキストの輪講

FACULTY  
OF  
ENGINEERING  
KEIO UNIVERSITY

慶應義塾大学工学部新校舎



■ 研究・教育のための職員

〔BAorBS：学士      PhD：博士課程修了〕  
〔MAorMS：修士      PhD：博士〕

〔管理工学科専任教員〕

氏名	出身分野	最近の専攻分野	当学科での担当分野
教授 坂元 平八	数学 (BS) 統計数学 (PhD)	数理統計学 応用統計学	数理統計学, 確率論, 統計調査論
同 高橋 吉之助	法学 (BA) 経済学 (PhD)	会計学 マネジメント・コントロール	経営計算論, 経営管理論, 利益管理論
同 千住 鎮雄	機械工学 (BS, PhD)	経営工学	経済性工学, 生産管理, 経営意決定論
同 浦 昭二	応用数学 (BS, PhD)	計 算 機 械 学 数 値 解 析	数値解析, 計算機械応用
同 林 喜男	応用化学 (BS, PhD) 管理工学 (PhD)	システム工学, 人間工学, 自動制御	システムズ・エンジニアリング, 人間工学
同 鷺尾 泰俊	数学 (BS, PhD)	応 用 統 計 学 数 理 統 計 学	応用統計学, 実験計画法, 数理統計学
同 森 敬	経済学 (BA, MA, PhD)	計 量 経 済 学 コンピュータのシステム評価	計 量 経 済 学 経 済 学
助教授 関根 智明	精密工学 (BS, PhD')	オペレーションズ・リサーチ 計 算 機 応 用	オペレーションズ・リサーチ, 計算機応用, データ処理
同 柳井 浩	計測工学 (BS, MS) 管理工学 (PhD)	オペレーションズ・リサーチ 数 値 解 析	オペレーションズ・リサーチ, 線形数学, 数値解析
同 伏見 多美雄	経済学 (BA) 経営学 (MA, PhD)	企 業 経 済 学 経 営 科 学	経営管理, 経営計算, 経済性工学
講師 師岡 孝次	機械工学 (BS, MS) 管理工学 (PhD)	生 産 工 学	生産管理, インダストリアル・ エンジニアリング
同 川瀬 武志	機械工学 (BS) 管理工学 (MS, PhD')	経 営 工 学 行 動 科 学	生産システム分析・設計, インダス トリアル・エンジニアリング
同 大駒 誠一	計測工学 (BS)	コンピュータ・サイエンス	計算機械応用, データ処理
同 中村 善太郎	管理工学 (BS, MS, PhD')	経 営 工 学	インダストリアル・エンジニア リング, 生産計画管理論
同 西野 寿一	機械工学 (BS) 管理工学 (MS, PhD)	数 理 経 済 学 数 理 計 画 法	数理経済学, オペレーションズ ・リサーチ
同 福川 忠昭	管理工学 (BS, MS, PhD')	組織行動科学 オペレーションズ・リサーチ	経営管理, 経営計算
同 竹中 淑子	数学 (BS, MS, PhD) 管理工学 (PhD')	応 用 数 学	数学, 確率および統計
同 行待 武生	管理工学 (BS, MS, PhD')	システム人間工学 情報システム工学	システムズ・エンジニアリング, 人間工学
助手 竹内 寿一郎	管理工学 (BS, MS, PhD')	多変量解析とコンピュータ	統計・OR演習
同 中西 正和	管理工学 (BS, MS, PhD')	計 算 機 械 学	計算機械実習
同 安西 裕一郎	応用化学 (BS) 管理工学 (MS)	システム理論 システム工学	SE・人間工学実験, 基礎 工学実験
同 川島 弘尚	管理工学 (BS, MS)	システム工学 システム理論	SE・人間工学実験, 基礎 工学実験
同 小島 政和	管理工学 (BS, MS)	オペレーションズ・リサーチ	統計・OR演習, 基礎 工学実験

〔他学科専任教員〕

	所 属 学 科	科 目 名 (学 部)	科 目 名 (大 学 院)
浅井 慶三郎	商学部助教授	市場開発調査論	
新井 康世	計測工学科講師	計算機工学	
印 東 太郎	文学部教授	計量心理学	計量心理学特論
金子 秀淋	経済学部教授	産業心理学	
河田 龍夫	数理工学科教授		数理解析特論第1 数理工学特殊研究
刀根 薫	教養過程助教授	数値解析	
藤田 広一	電気工学科教授	アナログ・シミュレーション	

〔外 来 講 師〕

	所 属 機 関 及 び 職 名	科 目 名 (学 部)	科 目 名 (大 学 院)
浅井 晃	千葉大学理学部 数学科教授	標本調査論	
小笠原 謙 藏	日本アイ・ピー・エム	データ伝送	
岡本 行二	東京芝浦電気	計算機応用第3	
工藤 弘安	行政管理庁 行政管理局	統計調査論	
高木 金地	武蔵工業大学 経営工学科助教授	応用統計学第2	
丸山 儀四郎	東京教育大学理学部 応用数理学科教授	確率過程論第1 確率過程論第2	確率過程論 確率特論
山内 二郎	青山学院大学 経営工学科教授		S・E特論 システム・エンジニアリン グ特論
和田 栄治	青山学院大学 経営工学科教授	インダストリアル・ エンジニアリング第3	
渡辺 昭雄	富士通	データ処理	

## ■ 専任教員の紹介

### 坂 平 元 八

〈略 歴〉

1940年東京大学理学部数学科卒。1962年理学博士。第一生命保険相互会社（3年）、電気試験所（7年、兼任を含む）、文部省統計数理研究所（6年）、神戸大学理学部数学科教授（9年）をへて、1959年より慶応義塾大学管理工学科教授。

この間、ニューヨークのコロンビア大学理学部訪問教授ならびにカルカッタのインド統計研究所訪問教授。

〈主な著(訳)書〉

シューハート著、デミング編「品質管理の基礎概念——品質管理の観点からみた統計的方法」（訳書、岩波書店）等、その他数理統計学、応用統計学の分野における論文あり。

### 高 橋 吉之助

〈略 歴〉

1942年慶応義塾大学法学部法律学科卒、1947年同大学経済学部修了、1959年ハーバード大学経営大学院 I. T. P. 課程卒、1966年慶応義塾大学より経済学博士の学位を受ける。1947年慶応義塾大学経済学部助手、同助教授、商学部教授を経て、1961年より工学部教授。1960年より同大学ビジネス・スクール教授を兼務。

〈主な著(訳)書〉

新版現代の会計管理（中央経済社）、近代勘定理論（中央経済社）、学校法人会計の理論（共著、国元書房）、学校法人会計制度の基礎（国元書房）、アンソニー著「経営管理システムの基礎」（訳書、ダイヤモンド社）。

### 千 住 鎮 雄

〈略 歴〉

1946年慶応義塾大学工学部機械工学科卒。橘田生産工業所（約1年）、麻生産業（約3年半）勤務の後、機械工学科助手として慶応にもどる。1960年慶応義塾大学より工学博士の学位を受ける。機械工学科講師、管理工学科助教授をへて、1962年教授。その間、1967～68年ジョージア工科大学訪問教授。

〈主な著(訳)書〉

「OR入門」（オーム社）、「線形計画法」（共立出版）、「経済性工学」（共著、日本能率協会）、「品質管理のための経済計算」（日科技連出版社）、その他。

### 浦 昭 二

〈略 歴〉

1952年東京大学工学部応用数学科卒業、同大学院工学研究科修士課程中退。1962年九州大学より理学博士の学位を受ける。東京大学工学部助手、慶応義塾大学助教授をへて、1962年より当学科教授。

〈主な著(訳)書〉

「FORTRAN入門」（培風館）、「アセンブリ言語入門」（培風館）、「コンピュータ・サイエンス」（共訳）、「統計数値表」（共著、日本規格協会）

### 林 喜 男

〈略 歴〉

1950年慶応大学工学部応用化学科卒業、1955年同大学工学研究科博士課程修了。1960年慶応大学医学部より医学博士の学位を受ける。1968年慶応大学工学部より工学博士の学位を受ける。

1955年慶応大学医学部助手を経て、1960年同大学工学部管理工学科助教授。1968年教授今日に至る。

〈主な著(訳)書〉

人間・機械システムの設計（人間と技術社）、人間工学入門（ダイヤモンド社）、無人化システム（日刊工業）

### 鷲 尾 泰 俊

〈略 歴〉

1953年九州大学理学部数学科卒業、九州大学理学部助手、旭化成工業KK社員をへて、1961年当学科助教授、1973年教授。1971年九州大学より理学博士の学位を受ける

〈主な著(訳)書〉

「数理統計学」（共著、白日社）

### 森 敬

〈略 歴〉

1955年慶応義塾大学経済学部卒、1958年同大学院経済学研究科修士課程修了。1968年同大学より経済学博士の学位を受ける。1958年慶応義塾大学計測工学科助手、1959年管理学科助手、1964年講師、1968年助教授。1968年アメリカ留学（ペンシルバニア大学、ワートン予測研究所、ブルッキングス研究所各研究員）1970年帰任、1973年教授。

〈主な著(訳)書〉

「計量経済学と計算機」（東洋経済、近刊）、「日本経済の成長と循環のシミュレーション分析」（小宮隆太郎編「戦後日本の経済成長」岩波書店の中の論文）。

関根 智明

〈略 歴〉

1951年東京大学工学部大学院修了。中央大学工学部助教授を経て、1953年当学科助教授。

〈主な著(訳)書〉

やさしいOR教室、非線形計画法、簡明コボル、プログラミング技法。

柳井 浩

〈略 歴〉

1959年慶應義塾大学工学部計測工学科卒業、1964年同大学院工学研究科博士課程修了。1967年慶應義塾大学より工学博士の学位を受ける。慶應義塾大学工学部助手、1968年当学科専任講師、1972年助教授。

〈主な著(訳)書〉

「経営数学入門」(訳書、講談社)

伏見 多美雄

〈略 歴〉

1958年慶應義塾大学経済学部卒業、引きつづき同大学大学院経済学研究科修士課程、博士課程修了。1972年同大学より経済学博士の学位を受ける。1961年慶應義塾大学管理工学科助手。専任講師を経て、現在同学科助教授。

〈主な著(訳)書〉

「企業の経済分析」(中央経済社)、「投資分析の基礎」(中央経済社)、「経済性工学」(共著、日本能率協会)、「意思決定と利潤計算」(訳編、日本生産性本部)、その他。

師岡 孝次

〈略 歴〉

1955年慶應義塾大学工学部機械工学科卒業、1957年同大学院機械工学研究科修士課程修了、1960年同博士課程修了、1969年同大学より工学博士の学位を受ける、現在専任講師。

〈主な著(訳)書〉

「習熟性工学」(建帛社)、「IEの手ほどき」(日本経済新聞)、「生産管理」(ダイヤモンド)、「システム設計の実際」(日科技連)

川瀬 武志

〈略 歴〉

1957年慶應義塾大学工学部機械工学科卒業、1959年同大学管理工学科助手。1964年ノースウェスタン大学工学部IE/MS学科修士課程卒業、1965年ジョージア工科大学IE学部博士課程修了。1967年慶應義塾大学工学部管理工学科講師。

〈主な著(訳)書〉

「フィルム分析入門」(日本能率協会)「動作時間研究の理論と実際」(共訳、紀伊国屋)、「経営と経営科学」(共訳、好学社)。

大駒 誠一

〈略 歴〉

1959年慶應義塾大学工学部計測工学科卒業。1962年まで小野田セメント株式会社勤務、1962年慶應義塾大学工学部管理工学科研究員、1964年同学科助手、1970年より専任講師。

〈主な著(訳)書〉

「COBOL入門」(培風館)

中村 善太郎

〈略 歴〉

1963年慶應大学工学部管理工学科卒業、ひきつづき同大学院修士課程、博士課程修了。1965年同管理工学科助手、1971年講師現在に至る。

〈主な著(訳)書〉

人間機械システムの設計 (共著; 人間と技術社)

西野 寿一

〈略 歴〉

1963年慶大工学部機械工学科卒業、1968年同大学院工学研究科博士課程修了。1971年慶應義塾大学より工学博士の学位を受ける。1965年管理工学科助手、1971年管理工学科専任講師。

〈主な著(訳)書〉

“競争社会のゲームの理論” (共著) 1970, 勁草書房

福川 忠昭

〈略 歴〉

1964年慶應義塾大学工学部管理工学科卒業、1966年同大学院工学研究科修士課程卒、1969年博士課程修了。1966年慶應義塾大学工学部助手、1972年講師。

〈主な著(訳)書〉

「流通過程の諸問題(5)」(共著, 機械振興協会) 「AIS訪米視察団報告書」(共著, 日本オペレーションズ・リサーチ学会) その他

竹中淑子

〈略歴〉

1962年九州大学理学部数学科卒業, 1964年同大学院理学研究科修士課程修了。1964年大阪大学基礎工学部助手。1967年慶応義塾大学工学部管理工学科博士過程修了, 1967年同科助手を経て, 1972年講師, 今日に至る。1971年九州大学より理学博士の学位を受ける。

〈主な著(訳)書〉

「情報科学の基礎」巻1, 巻13(共訳, 学研出版), その他。

行待武生

〈略歴〉

1964年慶応義塾大学工学部管理工学科卒業, 引きつづき同大学院修士課程・博士課程修了。1966年当学科助手, 1973年専任講師となり今日に至る。

竹内寿一郎

〈略歴〉

1965年慶応大学工学部管理工学科卒業, 同年武蔵工業大学経営工学科助手。1967年慶応大学大学院工学研究科修士課程修了, 1969年同大学工学部管理工学科助手, 1971年同大学大学院工学研究科博士課程修了。

〈主な著(訳)書〉

「統計数値表」(共著, 日本規格協会)

中西正和

〈略歴〉

1966年慶応義塾大学工学部管理工学科卒業, 引きつづき同大学院修士課程・博士課程を修了。1969年当学科助手。

安西裕一郎

〈略歴〉

1969年慶大工学部応用化学科卒業, 1971年同大学院工学研究科修士課程管理工学専攻修了, 1971年同工学部管理工学科助手。

川島弘尚

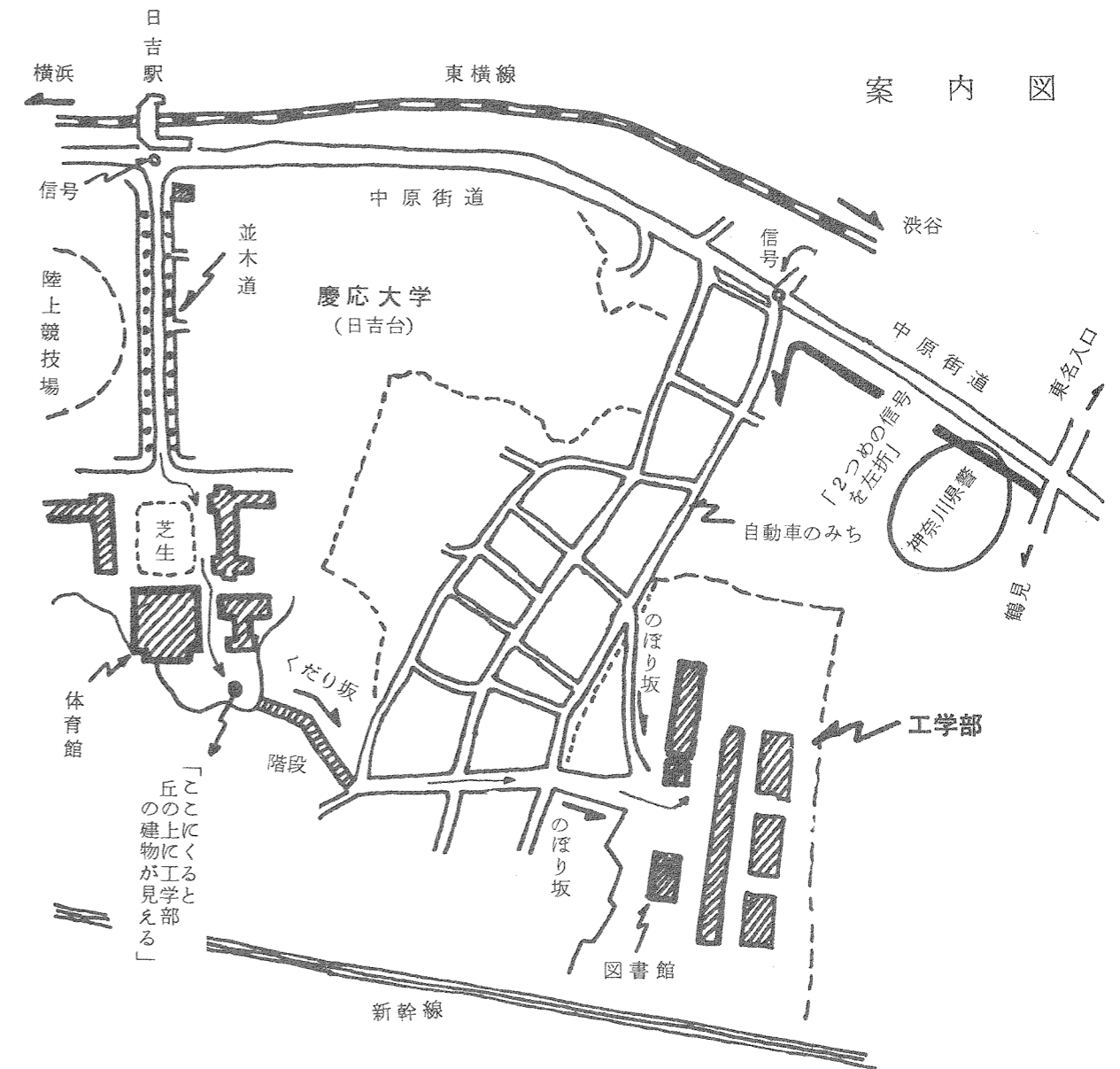
〈略歴〉

1968年慶応大学工学部管理工学科卒業, 1970年同大学大学院工学研究科修士課程修了, 1972年同慶応大学工学部管理工学科助手。

小島政和

〈略歴〉

1969年慶応義塾大学工学部管理工学科卒業, 1971年同大学院修士課程修了。現在博士課程に在籍。1973年当学科助手。

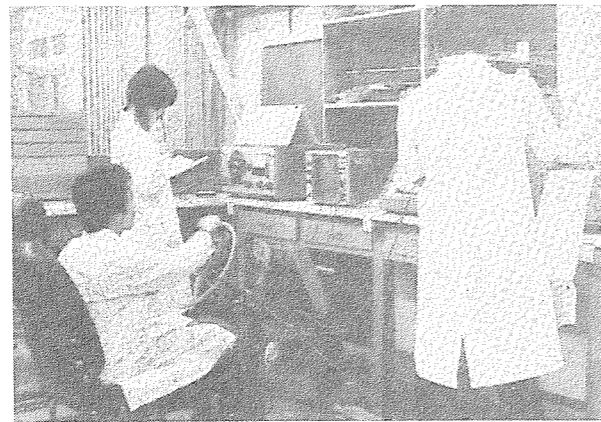




## ■ 教育と研究のための施設と設備

### 【施設】

教育と研究のための施設としては、教室、教員個別研究室、資料室、輪講室、大学院生室、人間工学・システム工学実験室、IE実験室、実験準備室、人間工学実験室、システム工学研究実験室、IE研究実験室、計算機研究実験室、機器保管室の他に特殊な実験装置、教材や研究資料を作製するための工作室、資料作製室、暗室などが用意されている。

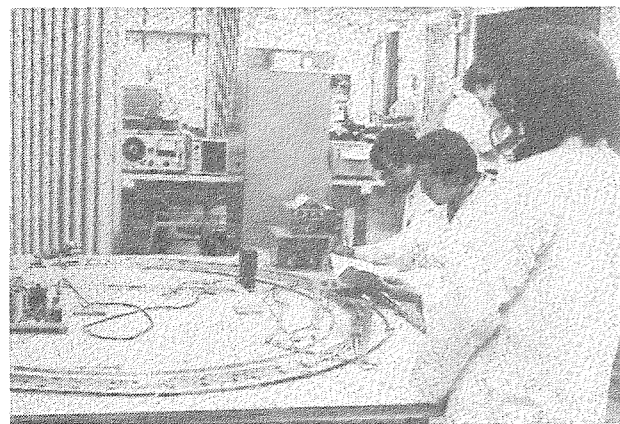


トラッキングの実験

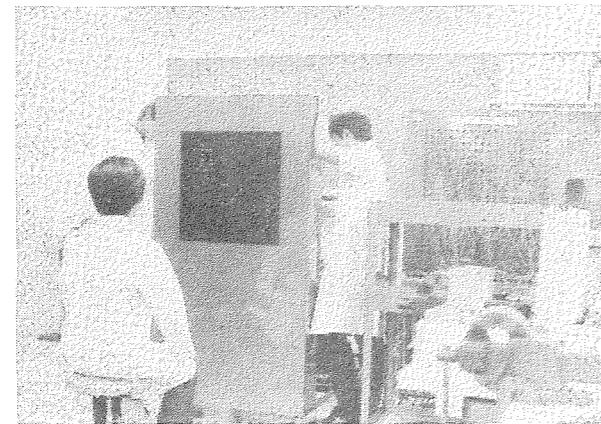
プロセスユニットシミュレータ2台、コンビナート実験用装置（蒸留塔、熱交換器など）1式、サーボモデル3台、パーセプトロン2台。



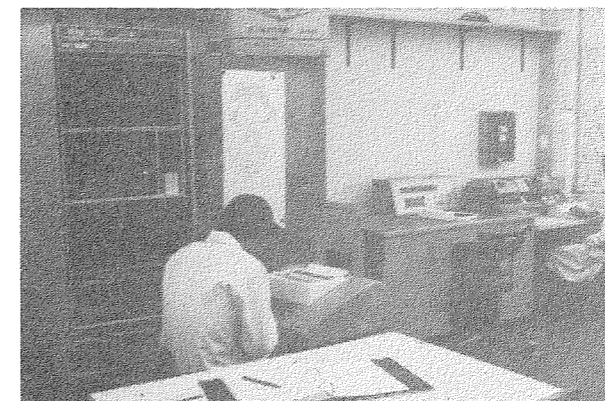
コミュニケーション実験



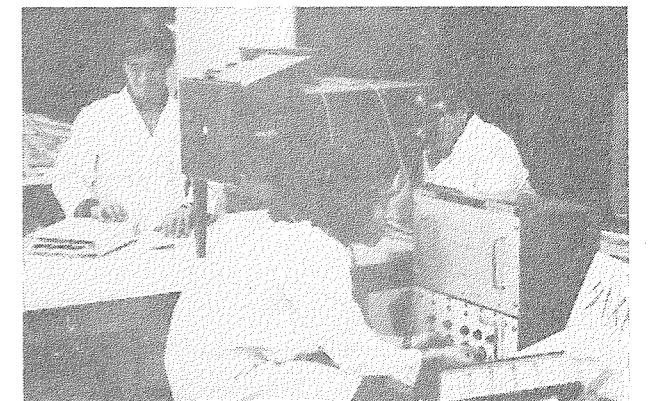
オートマトンの実験



パターン認識の実験



ミニコン実験



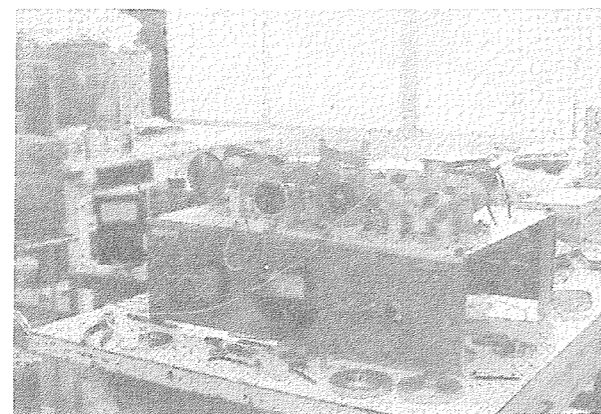
タキスト スコープの実験

### 【設備】

人間工学、システム工学、IE、電子計算機に関する教育・研究のための多方面にわたる解析、実験が行なえるように各々の研究実験室が設けられていて、各々に独自の機械や装置が設置されている。

万能シミュレータ1台、小型電子計算機2台、データレコーダ2台、ロジックトレーナー5台、ブラウン管オシロワイド型4台、シンクロスコープ6台、メモリスコープ1台、周波数カウンター2台、ユニバーサルカウンタ5台、デジタルプリンター1台、記録計5台、データ処理装置1台。

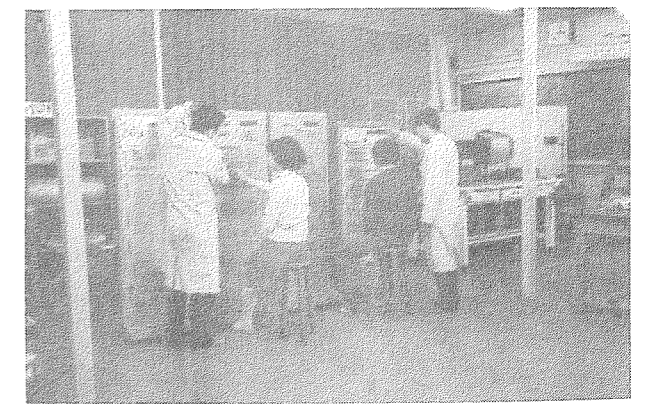
脳波計1台、脳波分析計1台、監視記録装置1台、医学用テレソータ1台、呼吸分析装置1式、精神反射電流測定器1台、オーディオメータ3台、フリッカー測定器4台、タキストスコープ4台、パターン認識実験用ランプボード2台、注視点記録装置1式、自動動作分析装置1式、モーションアナライザ1台、VTRシステム3式、イメージオルシコンカメラ1台、高速度カメラ1台、各種16mm撮影機4台、解析用8mm撮影機6台、解析用映写機16mm5台、8mm6台、教育用16mm映写機3台、アニメーションスタンド1台、各種複写機6台、ベルトコンベア3台、ディーゼルエンジン5台、作業解析実験用電動工具（ボール盤、のこ盤、フライス盤、旋盤）、時間観測用器具、ビジネスゲーム用デジタル数値表示装置。



サーボモデル

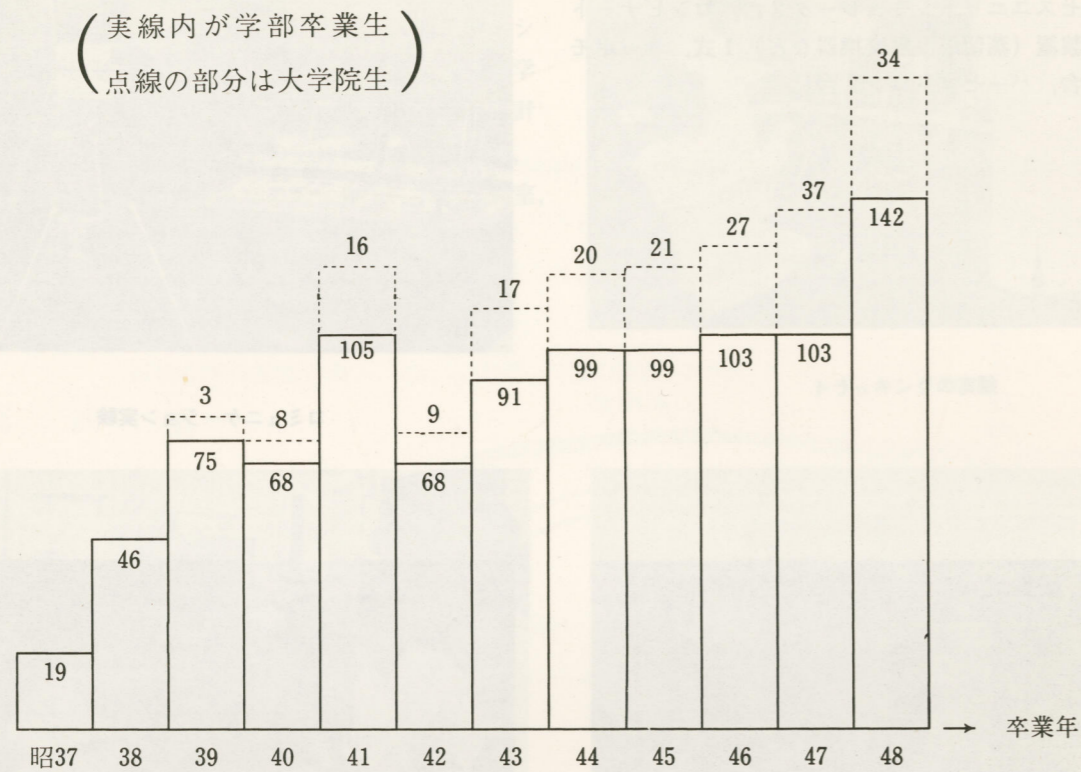


ビジネスゲームの実験



ロジック トレーナーの実験

## ■ 卒業生数の推移



## ■ 学生生活

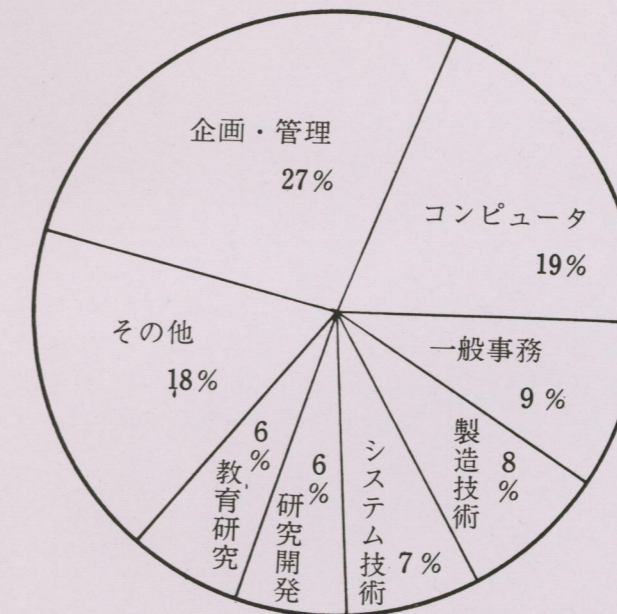
新校舎の建設により46年より1年から4年までを日吉で送ることになった訳であるが、設備の充実とともに他学部との交流が密接になることは学生生活にとって喜ばしいことと思われる。クラブ活動としては工学部内だけでも各種文化・体育団体があり、忙しい授業の合い間に活動を続けている。また三田祭にはクラブだけでなく学科単位でも参加し、特色ある展示を行なっている。

学内の厚生施設としては学生相談室、食堂、生協組合、学生ルーム、売店、床屋、靴屋、学生控室などがある。

当科では、学生10人位が1人の先生につき、レクリエーション、勉強、雑談、などを通してお互いの意思疎通をはかることにより、少しでも学生と教員との間の人間的つながりを緊密にしようと努めている。

## ■ 卒業生の活動分野

(44年度のサンプリング調査による)



## ■ 外部との関係

### 1. 受託研究

管理工学科は、この学科の特殊事情として、卒業論文や研究論文のテーマがかなり多岐にわかれ、理論的な立場からの研究から、工場現場での管理技術の実地の応用といった、実際的な主題にまでわたる。産業界の実務家が、当科の種々の学科内容にふれる機会をつくと同時に、当科が産業界の実情を具体的に把握し、社会に貢献する目的で、慶応工学会（新宿区角筈1-826 紀ノ国屋ビル5階 TEL352-3609）を通じ、種々の分野の委託研究を行っている。いくつかの例を紹介すると次のようである。

1. 生産管理、品質管理、経済性工学
2. 原価管理、会計情報システム
3. オペレーションズ・リサーチの実際問題
4. 経済予測、需要予測、産業別生産高予測
5. 電子計算機システムの開発とソフトウェアの開発

### 2. 聴講生・研究生

産業界の実務家が当科における種々の新しい学科内容に接する機会を作るため、各会社、工場からの聴講生を広く受け入れている。また、特定のテーマを持った研究生も受け入れている。

### 3. フィルム・機械類の貸し出し

教育訓練研究用のフィルムおよび各種研究設備器具を実費で貸し出し、使用指導を行う。